

行事の意義を考える 季節の行事「嘉祥菓子」

第121号 2019年6月24日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

6月の室礼



「旧暦6月16日はお菓子を供え、日々の無事を感謝し、
「嘉祥の儀」を行う日。

その起源には諸説あるようですが、水無月は梅雨時で湿気が多いため、昔から疫病がはやる季節と恐れられており・・・国中に疫病が蔓延した848年平安時代、6月16日にお菓子やお餅を神様に供えて、疫病退散と招福を祈る「嘉祥菓子の儀」を行い、元号を「嘉祥」と改めたことにはじまると伝えられています。[自然から学ぶブログより](#)

紫と青（緑）の対比の美しさを表した「青紫聯芳（せいしれんぼう）」を意味して、この時期の旬の野菜、白瓜と茄子、空豆も盛りました。

「青紫聯芳」とは、青（＝緑色 古来日本では緑もアオと呼んでいました）瓜と紫色のなすが互いに自己を主張することなく、分を守って調和している姿をたたえた言葉だそうです。





「嘉祥菓子」は、あまり聞きなれないかもしれませんが、この日は昔から和菓子を楽しむ日として知られていたそうで…平安時代に生まれた嘉祥の日は、明治 時代には廃れてしまったのですが、1979年に全国和菓子協会によって「和菓子の日」として復活したそうです。

◆和菓子の日：<https://www.wagashi.or.jp/wagashinohi/>

[クルーブログより](#)

「とらや」の羊羹を食べよう！

今回は、「嘉祥の儀」に沿って、クルー皆で「とらや」の羊羹を頂きました。「とらや」の羊羹と言えば有名ですが、「嘉祥の儀」の時期限定販売の嘉祥蒸羊羹を頂きました。



お菓子にも歴史があり、今コンビニやスーパーでは、様々なお菓子が売られていますが、当初は厄除や福を招くためということは知りませんでした。社内では、コーヒーや紅茶を飲みながらお菓子を食べることがありますが、一息つきながら様々な話で盛り上がります。

子どもたちも毎日おやつを園で食べていると思いますが、間食という意味だけでなく本来は疫病退散や招福の願いが込められていたようです。行事というと何か大きなものをイメージしてしまいがちですが、子どもたちにとっては毎日のおやつ時間も、1日の中での大きな行事であり、甘いものを食べると幸せな気持ちになるのは今も昔も変わらないことなのかもしれません。

今回は、クルー皆で羊羹を食べながら、季節の行事「嘉祥菓子」について味わう取り組みとなりました。

●過去のバックナンバー

第118号

21世紀型保育のススメ②

第119号

楽健寺天然酵母パン

第120号

むかしの田んぼ__草取り

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2 号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。